

2014 年度(平成 26 年度)横浜市委託事業 日本語学習コーディネート業務

## 教室実習型研修(日本語教室)実施報告



2015 年 3 月

公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

## 2014 年度教室実習型研修（日本語教室）概要

- 1 **目的** ・横浜市における「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動の充実を図る。  
・横浜市における公的日本語教室のあり方を検討する。
- 2 **基本方針** ・実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動→学習者の自立・自己実現・社会参加  
・日本人と外国人双方の「多文化コミュニケーション能力」の育成  
・外国人当事者の企画運営への参画
- 3 **内容** 教室実習型研修の実施  
\*教室実習型研修とは  
・受講者（支援者）にとっては、研修（＝教室活動の観察・体験）  
・学習者にとっては、日本語教室（＝学習機会の提供）  
\*研修の名前を「『横浜に暮らす人のための初期日本語教室』体験研修」とした。  
\*教室の名前を「横浜に暮らす人のための初期日本語教室」とした。
- 4 **会場** 公益財団法人横浜市交際交流協会（YOKE）
- 5 **講師他** 講師：金龍男(キム ヨンナム) 早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師  
武一美(タケ カズミ) 早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師、  
NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ理事  
助言者（日本語学習経験者）：  
中山利恵(ナカヤマ リエ) 日本語講師、中国出身  
朴美眞(パク ミジン) 特定非営利活動法人国際交流ハーティ港南台交流部会、韓国出身
- 6 **受講者** 2014 年度日本語ボランティア研修会「多文化共生・社会参加の視点から地域日本語教室を考える」受講者から希望者を募った。11 人(日本語学習経験のある外国人 7 人、日本人 4 人)  
\*今年度初めての試みとして、「日本語学習経験のある外国人」と「日本語ボランティア(日本人)」を対象とした。
- 7 **学習者** YOKE およびなか国際交流ラウンジ主催日本語教室から希望者を募った。全 9 人
- 8 **日程及び内容**

回	実施日	体験研修の内容		参加人数
第 1 回	2015 年 2 月 9 日(月) 13:30~15:30	事前研修 ● 研修の基本方針の確認 ● 3 回の教室活動の具体的な進め方の説明と シミュレーションワーク		講師 2 人 体験研修受講者 11 人
第 2 回	2 月 23 日(月) 12:30~15:30	日本語教室での 活動体験  振り返り	日本語教室* *テーマ「よこはまのせいかつ」について みんなでいっしょにはなしましょう! <b>教室第 1 回</b> よこはまの生活で不便なこと・便利な ことを考えます⇒話します	講師 2 人 助言者 1 人 体験研修受講者 10 人 日本語教室学習者 6 人
第 3 回	3 月 2 日(月) 12:30~15:30	日本語教室での 活動体験  振り返り	日本語教室* <b>教室第 2 回</b> あなたの提案をみんなで考えます⇒ 話します	講師 2 人 助言者 1 人 体験研修受講者 6 人 日本語教室学習者 5 人
第 4 回	3 月 9 日(月) 12:30~15:30	日本語教室での 活動体験  振り返り	日本語教室* <b>教室第 3 回</b> あなたの提案を書きます⇒伝えます	講師 2 人 助言者 2 人 体験研修受講者 11 人 日本語教室学習者 5 人
第 5 回	3 月 16 日(月) 13:30~15:30	全体の振り返りとまとめ ● 受講者各自が思い描く理想の初期日本語教室の形と ボランティアの役割について考える		講師 2 人 助言者 1 人 体験研修受講者 7 人

＜事前研修の内容＞

1. 研修の基本方針の確認
2. 3回の教室活動の具体的な進め方の説明やシミュレーションワーク

＜事前研修の様子＞

①YOKE から研修の意図と経緯の説明をしました。



②講師から研修の基本方針、教室活動の説明がありました。



③体験ワーク：講師、受講者の「便利・不便」



配付資料：「この教室の考え方・教室の概要・3回の教室活動」

事前研修\_20150209

**「横浜に暮らす人のための初期日本語教室」体験研修**

金 龍男 ・ 武 一美

【この教室の考え方】

1. 日本語をたくさん使います。
2. お互いのことが少しずつわかるようになります。  
「教室コミュニティ」を作ります。
3. 「便利なところ」「不便なところ」をくわしく話します。  
そして、どんな所に住みたいのか、横浜はどんな町であってほしいのか、を提案します。

【教室の概要】

- ・ 学習者自身が住んでいる「今」の横浜について考える。
- ↓
- ・ 学習者自身が住みたい「理想」の横浜を考える。
- ↓ ↓
- ・ 横浜がもっと好きになって、ずっと住みたいと思う町にするために、自分には何が出来るのか、どんな提案が出来るのかを考える。

金・武(2015)

事前研修\_20150209

【3回の教室活動】

- ① 第1回(2月23日) … **お互いを知る。**  
※ふたつのグループに分かれます。  
・ 自己紹介。  
・ 横浜の生活において、不便なこと・便利なことを話し合う。  
→ キーワードを考える。  
不便だと思うこと、便利だと思うことをキーワードで話す。
- ② 第2回(3月2日) … **住みたい町を考える。**  
※グループを戻します。  
・ 横浜の生活において、不便なこと・便利なことを話し合う。  
→ 第1回目の発表を振り返る。  
何が、どう不便(便利)なのかについて、自分の具体的な経験やイメージをキーワードで話す。
- ③ 第3回(3月9日) … **自分のため/町のための提案をする。**  
※グループを戻します。  
・ 横浜の生活における不便なこと・便利なことについて、自分の提案を考える。  
→ 横浜のための/自分のための提案を考える。

【みなさんがすること】

準備の時、サポートをします。

- ☆ 学習者一人ひとりに準備を促す。
  - 日本語がわからない時は、いっしょに考えます。
  - 準備が終わったら、ペア(学習者とサポーター)で「便利・不便」を話し合います。
- ☆ 学習者一人ひとりに準備を促さない。
  - 不便だと思うこと、便利だと思うことをいっしょに考えます。
  - キーワードを準備します。
  - 準備が終わったら、ペア(学習者とサポーター)で「便利・不便」を話し合います。
  - ※ ゆっくり話します。やさしい日本語を使います。

金・武(2015)

日本語教室第1回「よこはまのせいかつ」について みんなで いっしょに はなしましょう！  
 「よこはまの生活」で 不便なこと・便利なことを **考えます** ⇒ **話します**

<活動のめあて>

自己紹介と、よこはまの生活で、自分が不便なこと・便利なことは何かを考え、伝えられること。

<活動の様子>

①二人の講師がそれぞれ自己紹介と自分の「不便・便利」を話します。

②学習者とサポーター(研修受講者)がペアやグループになって話します。

③学習者が一人ずつ自己紹介をします。



ことばリスト

ことばリスト&メモ	詞の中	Machi no naka	In a town / 在街上 / En la c
<input type="checkbox"/> 皮肉 <i>benryū</i>	<i>benryū</i>		
<input type="checkbox"/> 不便 <i>fuiben</i>	<i>fuiben</i>		
<input type="checkbox"/> 駅 <i>eki</i>	<i>eki</i>		
<input type="checkbox"/> 電車 <i>densha</i>	<i>densha</i>		
<input type="checkbox"/> 公園 <i>kōen</i>	<i>kōen</i>		
<input type="checkbox"/> 菜 <i>naishi</i>	<i>naishi</i>		
<input type="checkbox"/> タクシー乗り場 <i>takushii noriba</i>	<i>takushii noriba</i>		
<input type="checkbox"/> バス停/バス乗り場 <i>basutei/basu noriba</i>	<i>basutei/basu noriba</i>		
<input type="checkbox"/> 駐車場 <i>chūshūjō</i>	<i>chūshūjō</i>		
<input type="checkbox"/> トイレ/お手洗い <i>toire/otearai</i>	<i>toire/otearai</i>		
<input type="checkbox"/> アパート <i>apartō</i>	<i>apartō</i>		
<input type="checkbox"/> 家/うち <i>ie/uchi</i>	<i>ie/uchi</i>		
<input type="checkbox"/> マンション <i>manshon</i>	<i>manshon</i>		

学習者の便利・不便(例)

	便利	不便
Aさん	スーパー (いろいろある。安い。安全。)	駅 (人が多い。朝、会社員たくさん)
Bさん	駅&電車 (うちから近い。時間通り)	日本語ができない。(病院)
Cさん	コンビニ。どこにでもあります。	ごみばこ。十分ありません。
Dさん	デパートが多い。とても便利です。とてもとても大好きです。	・人が多すぎます・ごみばこはとても少ないです。・バスの数が少ないです。

<学習者の声>

- \*先生やさしいおしえました。みんなで一緒にうれしいです!
- \*おもしろかったです。たのしかったです。ありがとうございます。
- \*日本語のいい練習になりました。(英語)

教室活動後の受講者の振り返りから (サポーターを体験して)

- 日本語支援の際に使用する日本語と外国語(母語)のバランスのとり方  
 ⇒その場の状況、関係などによって違う。母語や媒介語を使ってもいいのではないかな。  
 ⇒母語がわかると母語でばかり話してしまう。日本人と外国人ペアで支援するほうがいいかな。
- 外国人である自分が日本語支援をするのは不安  
 ⇒日本語学習経験者として学習者の不安な気持ちを理解できる。学習経験があるからこそ何が難しいのかがわかる。説明できる。  
 ⇒逆に、日本人にとっては何でも知っていると思われることがストレスになることもある。

日本語教室第2回「よこはまのせいかつ」について みんなで いっしょに はなしましょう！  
**あなたの提案を みんなで 考えます ⇒ 話します**

<活動のめあて>

- ①よこはまの生活で、自分が不便なこと・便利なことをグループ内でもう一度話し、お互いの話を理解し合う。
- ②「私の不便」の中で一つ選び、不便を解決するための提案を考える。提案の理由を書く。理由を考えるため、いつ、どこで、どんな体験をしたかを語る。

<活動の様子>

- ①前回の話をお互いに理解するために話し合います。
- ②サポーター(研修受講者)は学習者の手伝いをしたり観察したりします。
- ③学習者とサポーターがペアになって「わたしの不便」の経験、提案を話し合います。



観察シート

《 観察メモ 》 観察日 2015年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_

◇ 全体の感想

◇ よかったこと

◇ 疑問点/気づいたこと

◇ 提案/アイデア (もしあれば)

学習者の不便・提案(例)

	不便	提案
Eさん	日本語ははなしできないですから幼稚園の先生はなしません。	幼稚園の先生が英語をはなしてほしいです。
Fさん	日本でびょういんが高いです。	安いびょういんをさがします。

<学習者の声>

- \* おもしろい。有益だった。(英語)
- \* お互いの横浜での生活経験を話し合えるいい機会だった。(英語)
- \* 自由、発表、交流、会話を学んだ。(中国語)

教室活動後の受講者の振り返りから (サポーターを体験して)

- 学習者を複数でサポートするとき、役割分担が明確だったのでやりやすかった。
- 学習者が言いたいこととは違うことばや内容を、サポーターが経験から安易に推測してしまう危険性。  
⇒推測していろいろなことばを出して選んでもらうことも一つの方法。  
⇒わからないのではなく日本語で言うために一生懸命考えている時間だとすれば、それを待つことも大事。
- 学習者の母語(媒介語)への対応の難しさ⇒母語で話したいのは言いたいことがあるから。まず母語で話してもらってから日本語でどう言えばいいか、一緒に考えることはできるのではないか。
- 学習者の発音をどう直せばよいか⇒学習者にとって難しい発音はあるが、使う文脈でわかるのでは。



日本語教室第3回「よこはまのせいかつ」について みんなで いっしょに はなしましょう！

あなたの提案を **書きます** ⇒ **伝えます**

<活動のめあて>

- ① (前回の続き)「私の不便」の中で一つ選び、不便を解決するための提案を考える。提案に理由を書く。理由を考えるため、いつ、どこで、どんな体験をしたかを語る。
- ② 書いた内容をもとに発表する。

<活動の様子>

①講師が今日の活動について説明します。

②学習者とサポーター(研修受講者)がグループになり、話し合います。

③学習者が一人ずつ発表をします。



学習者の発表内容 (例)

	不便	提案	わたしの経験
Fさん	①びよういんが高いです。 ②カットのやり方があわない。	安いびよういんをさがします。	カットに行きました。お金をはらうときにびっくりしました。三ぜん円でびっくりしました。インドでは600円から1000円の間です。自分でカットしました。かがみをみながらカットをしました。
Gさん	病院です。	通訳の人がほしいです。家の近くに病院をつくってください。	2回病院へ行きました。1回目ねんざしました。2回目家で倒れました。日本語がわかりません。遠いです。
Hさん	日本語と日本の文化を勉強するアクセスがあまりありません。	外国人向けに図書館での日本語勉強コーナーをつくり文化交流 corner をつくてほしい。	日本語のclassによくいきますけど、あまり話す機会がありません。個人的な日本語教え方がほしいです。中国人に向け教え方がほしいです。中国人以外の人特別漢字を教えてください。

<学習者の声>

- \* 日本語で自分の意見を言い出すことを勉強しました。 \* 日本語で話す自信がついた。(英語)
- \* 生活の中の便利と不便についての新しいことばを学んだ。(英語)

教室活動後の受講者の振り返りから (サポーターを体験して)

<日本語学習経験のある外国人>

- 皆(外国人)が同じような苦勞をしていることに気づいた。やさしい日本語でも分からない人は多い。
- 日本語を教えることも勉強したかったので今回の研修はよかった。
- この体験は良かった。私も外国人と日本語を話してサポートしたい。
- 体験研修で少し自信が増えた。外国人だからこそ気持ちを理解できる。

<日本人>

- 講師の学習者への問いかけの仕方、学習者が言いたいことの整理の仕方が勉強になった。
- 日本語がほとんど0の学習者と出会えてよかった。自分なりにどんなことばかけをしたらいいかがわかったので意識したい。
- 学習者の発話量が多かった。話を聞いて自分も学ぶことがあった。日本語教室に通っていても話す機会が少ないという話はボランティアとして反省材料。

### 全体の振り返りとまとめ

#### <研修の内容>

受講者各自が思い描く理想の初期日本語教室の形とボランティアの役割について考える。

#### <研修の様子>

- ① 教室活動の振り返り、ボランティアの役割について話し合います。
- ② グループに分かれて「理想の初期日本語ボランティア教室」について互いの考えを出し合います。



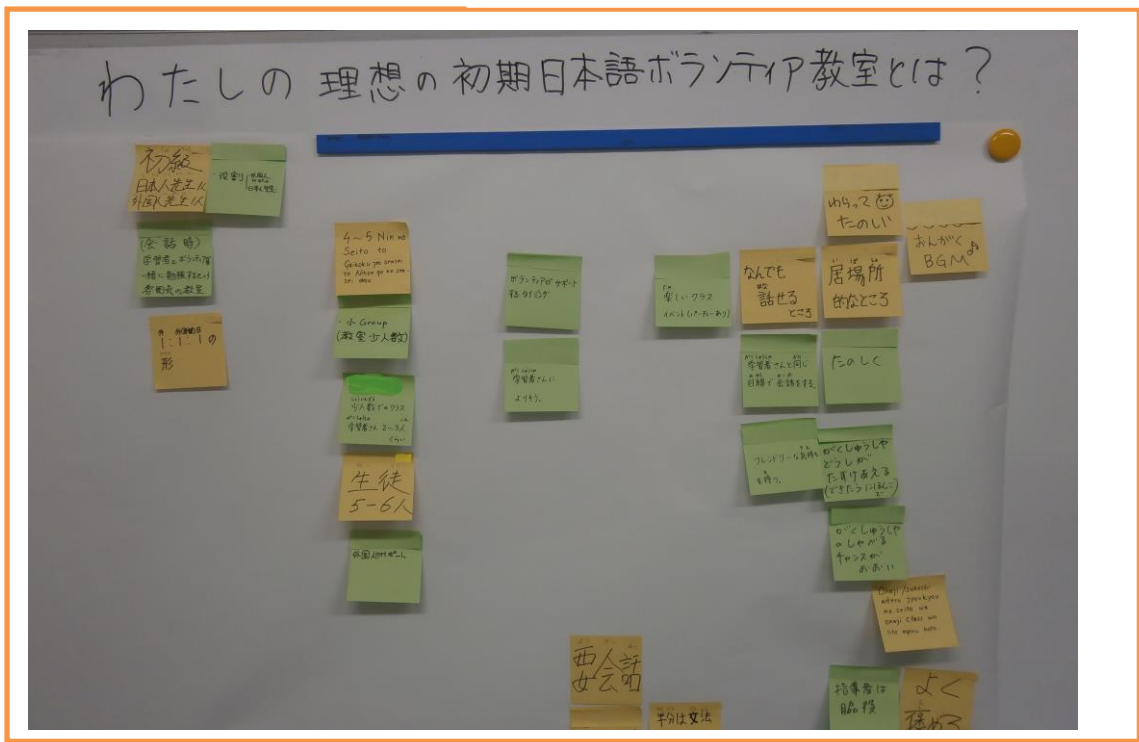
- ③ 付箋紙に書いた各自の意見を模造紙に貼っていきます。



<受講者のアンケートより>

- 貴重な体験ができました。
- 学習者の方たちのお話を聞いたのは視野が広がりこれからの活動にプラスでした。
- 楽しい勉強会ありがとうございます。  
(ローマ字)

<私の理想の初期日本語ボランティア教室とは>



## ◆体験研修を振り返って◆

### <体験研修講師より>

金龍男(キム ヨンナム)氏      武一美(タケ カズミ)氏

### 1つの社会としての地域日本語教室へ

「教室実習型研修」は、次に挙げる2つの場として設定されました。

- (1) 学習者が自分に必要な日本語を使用してコミュニケーションを行い、そのプロセスで日本語を学ぶ場
- (2) 研修受講者が、学習者をサポートするプロセスで、地域の日本語学習のより良い形を考え、また、サポーターの役割を検討する場

(1)の場は、学習者に向けた日本語の学習教室として設定されていますが、地域日本語教室が1つの社会であると考え、この場は、コミュニケーションの場であり、自己発信の場であると私たちは考えました。そこで、具体的な活動として、自分たちの暮らす横浜をさらに暮らしやすい町にするためには、なにがほしいのか、についての提案を最終目標として設定しました。その結果、図書館に外国人のための情報コーナーが常設されて、日本人、外国人を問わず、みんながおしゃべりできる場がほしいという提案がされました。また、提案には至りませんでした。「美容院が高くて困る。」という学習者の発信から、「私も日本に来たばかりの時に困った。」「安い美容院が〇〇にある。」など、共感を示したり、情報交換したりと、温かいやりとりがにぎやかに展開されました。

以上3回の学習の機会を通して、日本に来たばかりの学習者だからこそ困っていることがあり、それを発信することが重要であるということが分かりました。

(2)の場は、日本人、外国人双方の受講者が日本語教室に参加しました。そして、受講者は、日本語教室の観察と学習者へのサポートの両方を体験しました。毎回の日本語教室後の時間には、「よかったこと」「困ったこと」「相談したいこと」を振り返って話し合いました。この振り返りの場で、受講者には様々な学びがおきていました。外国人受講者は、学習者の声を聞いて、「私も同じだった。大変だよね。」と相手の気持ちをよく理解でき、「私はこうした」と具体的な例をあげて的確なアドバイスをすることができました。この共感する気持ちと体験者としてのアドバイスが、サポートする上での自分たちの強みであることを外国人受講者は学びました。一方、日本人受講者は、学習者へのサポートに際して、外国人受講者の存在の大きさを実感し、日本語教室の中で補い合って教室を作っていけることを学びました。

受講者の最後の振り返りでは「私の理想の初期日本語ボランティア教室は？」をテーマに話し合いました。その結果、日本人ボランティアと外国人ボランティアがいっしょに学習者をサポートする日本語ボランティア教室が提案されました。

(1)と(2)という重層的な構造をもった「教室実習型研修」では、(1)(2)双方の場において、学習者・日本人受講者・外国人受講者の三者が各々の立場から自己実現に向けた発信を試み、それを、この教室内で皆が受け止めていることが私たちには実感できました。これこそ多文化共生の小さな第一歩と言えるのではないのでしょうか。



## <助言者(日本語学習経験者)より>

中山 利恵(ナカヤマ リエ)氏 (日本語講師、中国出身)

体験研修第4回に参加させていただき、深い感銘を受けて自分の励みにもなりました。

教室では、皆さんが生活で不便なことをなくすための提案とその理由を考えて発表しました。その発表は、学習者にとって、日本語で話すチャンスを与えてくれて、勇気を出して自分の考えを皆さんにアピールすることができました。研修受講者の方々が発表の準備段階から一生懸命サポートし、支援の熱意もよく伝わってきました。教室活動の中で、日本語学習経験者も各グループに入っていることで、先輩としては、自分の経験からつまづきやすいところや、どう乗り越えたかなど、リアルに後輩たちに伝えられました。学習者と支援者の協働のプロセスの中で、支援者が日本語の奥の深さを感じて、もっと勉強したい気持ちが生まれてきた気がします。学習者が先輩たちの背中を見て、自分も頑張れば、先輩たちのように上手になれるとモチベーションを高められたようです。

このように、日本語学習支援活動の中に、日本語学習経験者の参加によって、チームワークの力を最大限に発揮し、先輩と後輩のように、日本語学習リレーができる環境づくりが大切だと思っています。自分もこのリレーの選手として走り続けたいと思っています。

朴美眞(パク ミジン)氏 (特定非営利活動法人国際交流ハーティ港南台交流部会・韓国出身)

2015年2月末、横浜市の外国人住民数はおよそ7万8千人余りに達しています。彼らの生活上の困難な問題の多くは、言語の不自由、すなわち意思疎通がスムーズでないことに起因しています。しかし、日本語を学ぶことができる日本語教室の数とそれに携わっているボランティアの人数は足りないのが現実です。それなら、持っている資源でより効果的なサポートが可能な方法はないか。もし、外国人としての多様な経験と日本語を学んだり教えたりすることに対して、日本人とはちょっと違う視点を持っている私たちが、初期日本語教室の現場で同じ外国人をサポートすることが出来るならば? という仮説の下で、方法を模索してみようという意味として始まったものが、まさに今回の体験研修の出発点だとも言えましょう。

同一のテーマで内容を少しずつ発展させながら3回にわたって体験・実習し、毎回、新たなサポート体制を試みるために、より効果的なサポート方法に対する熱い議論と意見交換があった時間。外国人参加者として抱いていた自分の日本語駆使能力に対する不安と心配は、一緒にいた日本人参加者たちのアドバイスと助けで、払拭していき、それぞれ具体的な成果物を生み出すために努力していた教室活動。この二つが印象に残りました。また、武一美さんとキムヨンナムさん、お二人の講師の初期日本語学習者に対する新鮮なサポートの仕方と分かりやすい進行のおかげで、「教室は『学ぶことを目的にする空間』ではなく一つの社会として機能するもので、それを『教室コミュニティ』と呼ぶ」という言葉に相応しい素晴らしい体験研修の時間となりました。